

月刊	平成27年	160
	2	月号
発行	「お〜い」編集委員会	
	品川区西大井 4-1-8	
	大井第三地域センター内 ☎ 3773-2000	

第15回中学生の主張大会

12月13日(土) きゅりあん小ホール

伊藤学園

伊藤学園からは、司会者として9年の萩原誠さんと堀内萌奈さん、また主張発表者として大谷絵実果さんが参加しました。司会の二人は、大会の司会進行だけではなく、品川区民憲章を読み上げ、堂々とした大変立派な姿が見られました。主張発表者の大谷さんは「主体性の大切さ」をテーマに、今私たちに求められている行動について主張しました。大谷さんは、主体性を、「目的が定まっていない状況で、自分で考え、判断し、行動すること」と定義し、「やるべきことが明確に決まっている状況で、その行動を人に言われず率先してする」自主性との違いを述べ、自ら目的をもって、動くことのできる力が、状況が目まぐるしく変わる今の社会では必要であると力強く語りました。彼女の強い思いに、会場にいた子どもも大人も、自分の行動を、改めて考えさせられました。彼女が考える主体性を、将来を担う多くの子どもたちが身に付け、どんな状況においても、目的をもって進み続けられるよう成長してほしいと思います。



(伊藤学園生徒会担当教諭 岸卓朗 記)

富士見台中学校

富士見台中学校からは9年生の細木優佳さんが出場し、みごと区で2位に当たる優秀賞に輝きました。

15校の代表の中で8番目に登場した細木さんの演題は「教育のありがたみ」。命を懸けて教育を受ける権利を訴えノーベル平和賞を受賞したパキスタンの少女、マララ・ユスフザイさんの言葉を引用しつつ、あたりまえのようにある「教育を受ける権利」のありがたさやこれからの生き方を堂々と発表してくれました。富士見祭での発表当時に比べると原稿はおよそ2倍。聞きやすく人の心に届くようにと前日まで原稿に手を入れました。また、発表の直前まで練習を重ね、どんどん上手になっていく様は見事でした。「マララさんが望んでいることを、私たちはすでに手にしています。彼女の強さを見習って、恐れず、外の世界へ大きく羽ばたいていきたいです。」こう結んだ細木さんは輝いていました。



(富士見台中学校主任教諭 宮本由里子 記)

祝 新築 ふれあい作業所西大井

社会福祉法人
社会福祉協議会

平成26年11月29日(土)、ふれあい作業所西大井(西大井4-9-9)の落成式および落成記念祝賀会が盛大に行われました。

また、12月1日(月)には新施設内覧会も行われ、近隣の方々等、多数の方が新施設の見学に来られました。

- ふれあい作業所 西大井事業内容
- ・清掃事業(公園清掃)
 - ・自主製品事業(和紙製品、布製品、腐葉土)

(熊田 記)



ふれあい作業所は、知的に障害をもった方が地域の中でご理解をいただきながら、社会の一員として共に生活していくことを目指し、公園清掃作業や自主製品製作及び生活訓練などを行っております。

昨年の暮れに老朽化した施設が新しく生まれ変わりました。自動ドアの玄関を目を輝かせて入ってくる作業生の「おはようございます!」の元気な声で一日が始まります。全員で食事ができる多目的室や明るい作業室等々、皆様方の暖かいご理解・ご支援・ご協力をいただき、素晴らしい環境で作業所の生活が始まりました。当作業所は、地域に根差した愛される施設を目指しておりますので、新施設の多目的室の一角に「交流の場」を設けました。近隣の方々同士のお茶飲みや語りなど、ご自由にご利用ください。

4月からは障害者総合支援法に基づいた就労継続支援B型施設として事業を開始し、「働く」ことの楽しさ、厳しさ、大切さを体験しながら、次のステップへチャレンジするための支援を更に充実していく所存でございます。これからもご支援よろしくお願いたします。

(ふれあい作業所西大井所長 網倉弘子 記)

